

新湯治紀行（土湯温泉）

還暦とは、「生まれたときと同じ歴に還る」そうだ。
ここで「男のロマン」を求め、令和4年10月に第三種旅行業の会社を設立した。

定款の作成及び認証手続き、会社設立登記、そして旅行業の登録とすべて自分で行った。

社名は、鶴亀旅行株式会社である。



土湯温泉

社長兼従業員の私は、毎日事業計画等頭を捻っている。そして10カ月が経ち、ストレスからくる体調不良に悩まされるようになってきた。机の上の鳴子こけしと肘折こけしが心配そうに見えているようだ。ある時、いつものように机に向かい仕事をしているとついうたた寝をしてしまった。鳴子と肘折のこけしが「土湯温泉に相談に行こう」との声で目が覚めた。

土湯温泉は、単純温泉と炭酸水素塩泉が湧く。泉質別適応症を見ると単純温泉は、「自律神経不安定症、不眠症、うつ状態」炭酸水素塩泉は、「きりきず、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症」である。

伝説では、『604年に聖徳太子が国府寺建設のため、秦川勝に自作の御本尊を授けられ東国に遣わしました。しかし秦川勝は成就半ばで病に伏してしまいました。彼が病に苦しんでいると「御本尊」が夢枕に現れ「信夫郡土湯と言う所に温泉有り。ここにて湯治せよ。病癒べし」とのお告げをされたので、秦川勝が温泉を掘って入浴したところ、病気は全快した』と伝えられている。



土湯温泉「ぶらり温泉まちあるき」をし、伝統こけしのお土産屋さんに入った。そこには、笑顔で迎えてくれたこけしがあり、手に取って「優しい表情のこけしですね」とお店の人に話すと「おかしこけしを集めた時のもので、自分の気に入ったものが一番いいよ」と譲ってくれた。

土湯温泉に1泊。翌日「白濁の硫黄泉がかけ流しの高湯温泉」へ日帰り入浴。2日目は飯坂温泉にて宿泊。3日目はお昼に「波来湯」（アルカリ性低張性温泉）に浸かった。3日間で『炭酸水素塩泉』→『硫黄泉』→『単純温泉』と「湯めぐり」をした。

旅行中に名案がひらめいた。鶴亀旅行の「こけしのふる里をめぐる温泉旅行」、さっそくプラン作りから始めようと思うと気も大きくなってきた。

2泊3日の秋の旅でしたが、心も体も絶好調となり、私の机の上にこけしが三つ現れました。



土湯 肘折 鳴子